



子どもたちにとって、昔の遊びは新鮮そのものです

楽 昔ながらの遊び体験『あ・そ・ぼ』を開催
楽しく地域で子育てを (松山)

7月8日、子どもたちに昔ながらの遊びを、地域の高齢者や大人が教えることで、世代間交流を進め、楽しみながら地域全体で子育てを支援しようと、「第2回あ・そ・ぼ」が松山公民館を会場に行われました。子育て支援を考える会「ホップクラブ」が主体となり、地域の各種団体の協力を得て、紙芝居、縄跳び、輪投げ、竹馬、折り紙、まりつき、お手玉、けん玉、コマまわし、囲碁・将棋、ペットボトルボーリングの11種類の遊びを子どもたちに提供しました。子どもたちは、目を輝かせて楽しんでいました。



小さな折り紙一つひとつに感謝の気持ちを込めて

感 古川まつりの七夕飾り制作
感謝の気持ちを込めて (古川)

8月2日から4日まで、「古川まつり」が開催されます。毎年、商店街の方々による手づくりの七夕飾りが通りを華やかに彩ります。七日町の衣料品店「てまん」さんでは、日ごろのご愛顧に感謝の気持ちを込め、今年も5本の七夕飾りを作成しました。従業員総出で今年の4月から準備を始め、7月中旬には組み立てるだけにまで進めました。配色や形、細かな装飾など、全体が調和することを心がけて一人ひとりが真心込めて制作したそうです。まつり当日、七夕飾りの美しさをぜひその目でご覧ください。

7月2日、上野目小学校開放事業「親子ふれあいコンサート」が行われ、69人の全校児童とその保護者の皆さんが音楽にふれるひと時を楽しみました。

平成9年から、地域に学校を開放する事業として、地元のアマチュアバンドと子どもたちのジョイントコンサートなどを行ってきましたが、今回は、古川を拠点に活動している「ゴスペルサークルJOY」のピックアップメンバー「JOYCE」のコンサートを開催。ゴスペルソングやポップスのハーモニーを親子で聞き入っていました。

美 上野目小学校「親子ふれあいコンサート」
美しいハーモニーに聞き入る (岩出山)



力強く美しいハーモニーに皆さんうっとり

東鳴子地区で5月から10月まで行われる「GOTEN GOTEN 2006 アート湯治祭」の関連イベントとして、7月9日、音遊具作家の多田広日さんを講師に「音のワンダーランド 音作りワークショップ」が開催され、市内外から40人が参加しました。東鳴子地区の山や川の音に耳を澄ます「音の風景探し」で、普段は意識しない自然の音を改めて感じた後、地元の竹を使って「世界にひとつの楽器づくり」を行いました。小鳥笛や横笛など、しっかりと音になる自分だけの手作り楽器に皆さん感激していました。

音 東鳴子地区で「音作りワークショップ」
音を感じる一日 (鳴子温泉)



いい音は意識しなければ、なかなか聞こえないものようです



お父さん、はく上手でしょ!

親 鹿島台第二幼稚園「親子陶芸教室」
親子ふれあいのひと時 (鹿島台)

6月25日、鹿島台公民館創作館を会場に、鹿島台第二幼稚園の両親参観の一環として「親子陶芸教室」が行われました。園児19人とその保護者が参加し、お茶菓子などを置く銘々皿づくりにチャレンジ。粘土を葉っぱの形にし、色付けや焼成は、高齢者サークルの方々に行ってもらいます。できあがったお皿は、来年3月3日に幼稚園で行うひなまつりの「お茶会」で使うそうです。鹿島台公民館では、毎月第3土曜日の午前中、陶芸ができる創作館を開放しています。あなたも陶芸にチャレンジしてみませんか。



山頂でパチリ 達成感が最高の笑顔を引き出します

山 平成18年度三本木地区民登山
山頂の空気はうまい!! (三本木)

7月16日、平成18年度三本木地区民登山が山形県月山で行われました。初心者からベテランまで、42人が参加。八合目の登山口から、まだ雪が残る荒涼な登山道をいっしょけんめいに登り、約3時間かけて参加者全員が山頂に到着しました。この日は曇りのち雨というあいにくの天気、絶景の眺めはおあずけでしたが、時折、雲間からのぞく高度感あふれる下界の眺め、急勾配や岩場を登りきった達成感、ひんやりと清涼な山頂の空気が、忙しさに追われる日常を少しだけ忘れさせてくれたようです。



ハンディを背負ったからこそ、得られたものがたくさんあると最高の笑顔を見せてくれた佐藤さん

夢 佐藤誠喜さんが陸上の世界・アジア大会へ
夢は北京パラリンピック出場 (田尻)

特別養護老人ホーム「かごぼうの里」で、マッサージ師として働く佐藤誠喜さん(富岡)は、25歳のとき、原因不明の目の病により視力を失いました。マッサージ師の資格を取得するため盲学校に入学しましたが、将来への不安が募り、眠れない日々を送ったそうです。その不安をかき消すために走り始めたのがきっかけとなって、本格的な陸上競技と出会うことになりました。

日々の練習を怠らず、持ち前の負けん気と前向きさで、着実に力をつけ、みやぎ国体では60m走で第3位、翌年の高知国体では同種目で優勝を果たすなど、各種陸上競技大会で好成績を残すようになりました。

今回、その成績が認められ、9月に行われる「オランダ世界選手権」全盲の部100m走と、11月にマレーシアで行われる「アジア大会」全盲の部100・200・400m走の日本代表に選ばれました。現在は、東京の陸上チーム「AC KITA」に所属し、練習や合宿、競技会などで、大変忙しい日々を送っているそうです。

レースへの抱負をたずねると「昨年出場したヨーロッパ選手権は初めて海外大会で、緊張のため思うように走れなかったのが、今度の世界選手権でその雪辱を晴らしたい。アジア大会ではどんな色でもいいのでメダルを手にした」と力強く話してくれました。佐藤さんの夢は2008年の北京パラリンピック出場です。